とうきょう
すくわく
プログラム

こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

とうきょう　すくわくプログラム
活動報告書
久米川なかよし保育園
ふたばぐみ（1歳児）

とうきょう　すくわくプログラム活動報告書

施設名	久米川なかよし保育園
施設所在地	東村山市栄町1-6-1ﾘｼｪｽ久米川1階
法人名	有限会社　鷺沼なかよし保育園

1　活動のテーマ

音

〈テーマの設定理由〉

テーマ1の『自然』を探究しながら、自然の形より自然物（葉など）から聞こえてくる
音などに興味関心が出てきた。石で遊具を叩く音や、枯れた葉っぱを手でもむなど、感触や音にも
とっても刺激を受けていた。
遊具に耳をあてて音を聞いている子どもたち、どんな音？言葉ではなかなか表現はできない年齢だ
が、自ら気づき楽しむことで興味関心を広げたいと考えた

2 活動スケジュール

1、音楽に合わせて踊ろう
2，公園に行って音を見つけてみよう
3，身近なおもちゃであそぼ（音のなるおもちゃ）
4，職員会議にて職員への活動報告
5，保育室へ掲示、保護者に活動報告（3月）
6、当園ホームページに活動報告を掲載（3月）

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

〈素材・道具〉

音のなるおもちゃ（黒ひげ危機一髪、玩具用の楽器、段ボール太鼓、）
廃材で作った楽器、バケツ、音源（デジタル機器使用）

〈環境設定〉

4人グループを3つを作りおもちゃの楽器を触ってみる。音の出し方等も
子ども自身で玩具を手に取り、探究をしてみることを心がける。
音源で様々な音をクイズで出す。選択的聴取にならないように
環境を整える

4 探究活動の実践

1、音を楽しむ
　ホールで音楽を流してみると、自然と体を動かしリズムに乗っている子が多かった。iPadで動物の鳴き声や、車の音、興味が大きいものを聞いてみると　ブタは「ブーブー」とは聞こえないことや本物の音の迫力に子どもの表情の変化がみられた。「こうやって丸めるとクシャって音がなった」、「びりびり」
など発見を保育士に伝え、一緒に喜びを共有できた
2、身近なおもちゃで遊ぼ
　保育室にあるおもちゃや、手作りおもちゃなどをグループに別れて音を楽しんだ。大きな紙を破る音、箱を叩くおと、力加減次第で音が変化することなども発見できた

5 振り返り

グループでの活動だけではなく、集団で音を楽しむことで、音以外に音がコミュニケーション
につながっていった。
子どもの反応を待つ前に、「こうやるんだよ」と音を出してしまい、探索ではなく
模倣になってしまわないように、子ども自らの探究になるように
環境を設定する意識が難しかった。普段の保育でも先回りして子どもに
方法や手段を伝えてしまいがちだが、様々な事象に対して、子どもの興味感心
を広げていくことが大切だと感じた

1　活動のテーマ

音

2　問いを考える

身近な音に触れ、
音を出して聞いてみよう

1月　音楽に合わせて踊ろう
2月　身近なおもちゃで遊ぼう

3　環境をデザインする
活動のために準備した素材や道具

- 音のなるおもちゃ
- 段ボールの泰子、バケツ
- 廃材で作った手作り楽器
- 音源(iPad)

どんなものから音がするかな？
たたいたり、揺らしたり、子どもの興味の赴くまま音を出してみる。
「選択的聴取」にならないように環境を整えておく

4　探究活動の実践

さぁ　誰の剣が
『バーン』って
な・る・か・な

振るあれ？なんか聞こえるね♪

大きくたたくと大きな音
小さくたたくと小さな音だね

紙をくしゃくしゃ、びりびり
『音』だね

先生からも『ドキドキ』
『スヤスヤ』（笑）

太鼓と、鳴子っていうんだよ

「この音知ってるー」いろんな音を見つけました

5 振り返り

子どもにとっては初めての音もあったはず。
「〇〇みたいなおと」と言葉で表現するのは難しい年齢でもあったが、「あっ、なんか聞こえる」と表現でき、次々に 「次は？」と積極的に取り組めていた

振ったり、たたいたり、
子どもの力で出せる楽器も多く、楽しんで音に触れていた。また音楽を流すと、自然と体を動かしたり、楽器を使って音楽

ピアノの音が聞こえるとなぜか音ですね。
楽に合わせて自分の音を出す子ども達。不思議ですね。曲が終わると「もういっかい」子ども達にとっては音は楽しい！そう表現してくれているように感じた

おと

『どんな音』クイズ
祇園での遊びの毎日、実際に音源で本物の音を聞いてみると「あれ？」と思う音も多く、大人も真剣に耳を澄ませていた。

段ボールの箱を手でたたく。みんなでたたく。１人が大きくたたくとつられてみんなも大きくたたく。顔を見合わせてたたいたり、みんなで踊りだしたりと、音を介してコミュニケーションが広がっていく様子も見れた。

楽器の概念はまだ難しいが「これはどんなおとかな？」と変化を感じることが大切だと思った。
大きな音は楽しい気分になり、優しい音は、心地よい音を自然と見つけているように思えた